

原初的な感性で、独自の表現を追求し続ける 山本じんの世界

彼方 山本じん展

森羅万象や本能を創造の源泉に、銀筆による繊細な描写で独自の世界を表現する山本じん。自然や事物を独特の感覚でとらえて描いた作品には、虚飾のない真の美しさと生命が宿っています。本展では、宇宙や自然の成り立ちといった根源的な問いをテーマに描いた作品約50点を2つの会期にわけて展示、販売致します。時間、空間を越えた「彼方」の世界をぜひご覧ください。

第1部 -Vol.1「引力」

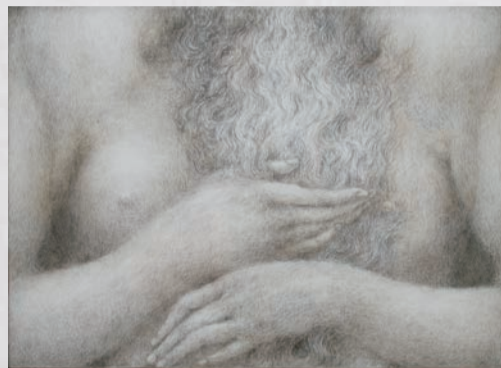
「すべての物体は、互いに引き寄せあっている」この宇宙の法則から想を得、あらゆる自然界の営みの中に、強く引き合う力「引力」を見出した。

全てのものに内在する引力は、物事を動かし、変化させる原動力であり、「愛」はその全てを超越する引力として描かれている。



《窓》銀筆・パステル/キャンバス 530×408mm

今にも花を開かせようとしている黒い向日葵。窓の外の母は幻のようで、聖母子像を想起させる。浮かび上がる数字は超えることの出来ない時間、空間を表すようにも見える。



《炎》銀筆/キャンバス 160×220mm

女性が胸に抱く炎は、生命の象徴であり、内なる力、熱情を表している。火は闇を照らし、全てを焼き尽くし、はかなく消えるもの。柔らかく幽美な女性の身体の美しさが心をとらえる。



《内なる異性》銀筆/キャンバス 160×220mm

原初、男女は一体であったとする神話において、男女が引かれ合うのは、太古の記憶に遡り一体になろうと願うからだと言われている。今も一人の人間に内在する男性性と女性性を描いた作品。

【銀筆】13世紀頃から用いられ、レオナルド・ダ・ヴィンチも多用した。ほぼ純銀に近い銀を削った鉛筆状の筆記具で羊皮紙の他、下地を施した紙、キャンバスや板に描く。

第2部 -Vol.2「69」

「この世は、光と闇、生と死、善と悪等、正反対の要素で成り立っている。」という考え方は、世界中の思想、哲学、宗教に現れる。東洋の陰陽思想では、これらの要素は対立する概念ではなく、表裏をなす二つの側面であると考えられ、互いに補い合い、融合する分ち難いものであると考えられている。本展では、これらの思想に触発され、宇宙の原理、男と女、自然界の摂理を描いた作品を展示する。



《舌》銀筆/板 128×90mm

透き通るような百合の花弁、花粉がこぼれ、雫が滴る花芯の艶かしさに息を呑む。

《日常》銀筆/板 128×90mm

薔薇についた虫を、傘にのったカエルが見つめている。自然の一幕を写し取ったユーモラスな作品。

《楽園》木炭・パステル/和紙・書 1310×920mm

亡父の書に重ねて描いた大作。神話の世界を想起させる始原的な風景の中で男女は言葉を持たず、身体を寄せ合っている。奥に描かれた泉は生命の源である。薄闇の中、泉水が霧のように立ち昇る情景に引き込まれる。書は良寛の「半夜」と李白の「春日醉起言志」。何れも“この世の生は夢のようなもの”と謳う。



山本じん / Jin Yamamoto

独学で芸術を学び、絵画、人形、彫刻等制作。ルネサンス期の銀筆画の技法を自身で研究し、1995年より制作、発表。大江健三郎・沼正三・井上雅彦等多数の書籍の装画を手掛ける。寮美千子（泉鏡花文学賞作家）と共著で絵本古事記「よみがえり-イザナギとイザナミ」を出版。

2024年4月27日|土|—5月23日|木| 13:00~18:00

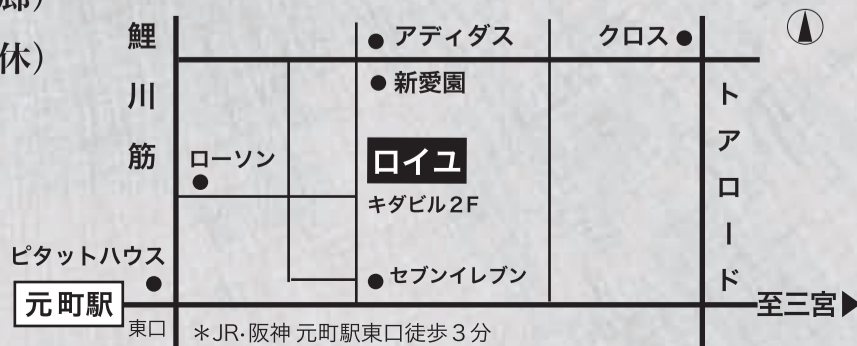
第1部 [Vol.1 引力] 4月27日|土|—5月11日|土|(水・木休廊)

第2部 [Vol.2 69] 5月12日|日|—5月23日|木|(会期中無休)

galerie L'œil
ギャラリーロイユ
650-0012 神戸市中央区北長狭通3-2-10 キダビル2F
Tel 078-595-9070
E-mail luna@g-loeil.com
URL http://g-loeil.com

交通アクセス

- ・JR/阪神「元町」駅東口から北東へ徒歩3分
- ・JR/阪急「三宮」駅西口から徒歩6分
- ・新幹線「新神戸」駅からタクシーで約10分
または地下鉄乗換「三宮」駅下車、徒歩7分
- ・神戸空港からポートライナー「三宮」駅下車徒歩8分



*作品の販売方法は、ギャラリーのホームページでご案内致します。お問い合わせはメールでお願い致します。